

出雲圏域

在宅療養における低栄養改善・食支援対策
～在宅医療・介護連携推進体制の構築に向けて～

島根県出雲保健所

【経過】

平成24年度～27年度

保健所が在宅医療介護連携を推進していくための事業を実施。

平成28年度

保健所が主体となり実施してきた「在宅医療・介護連携推進連絡会議」を核とした各種事業が市に移行。

保健所の役割の整理。



【新たな課題への対応方策の検討】

低栄養改善・食支援対策に向けた連携推進体制の構築

【取組経過】

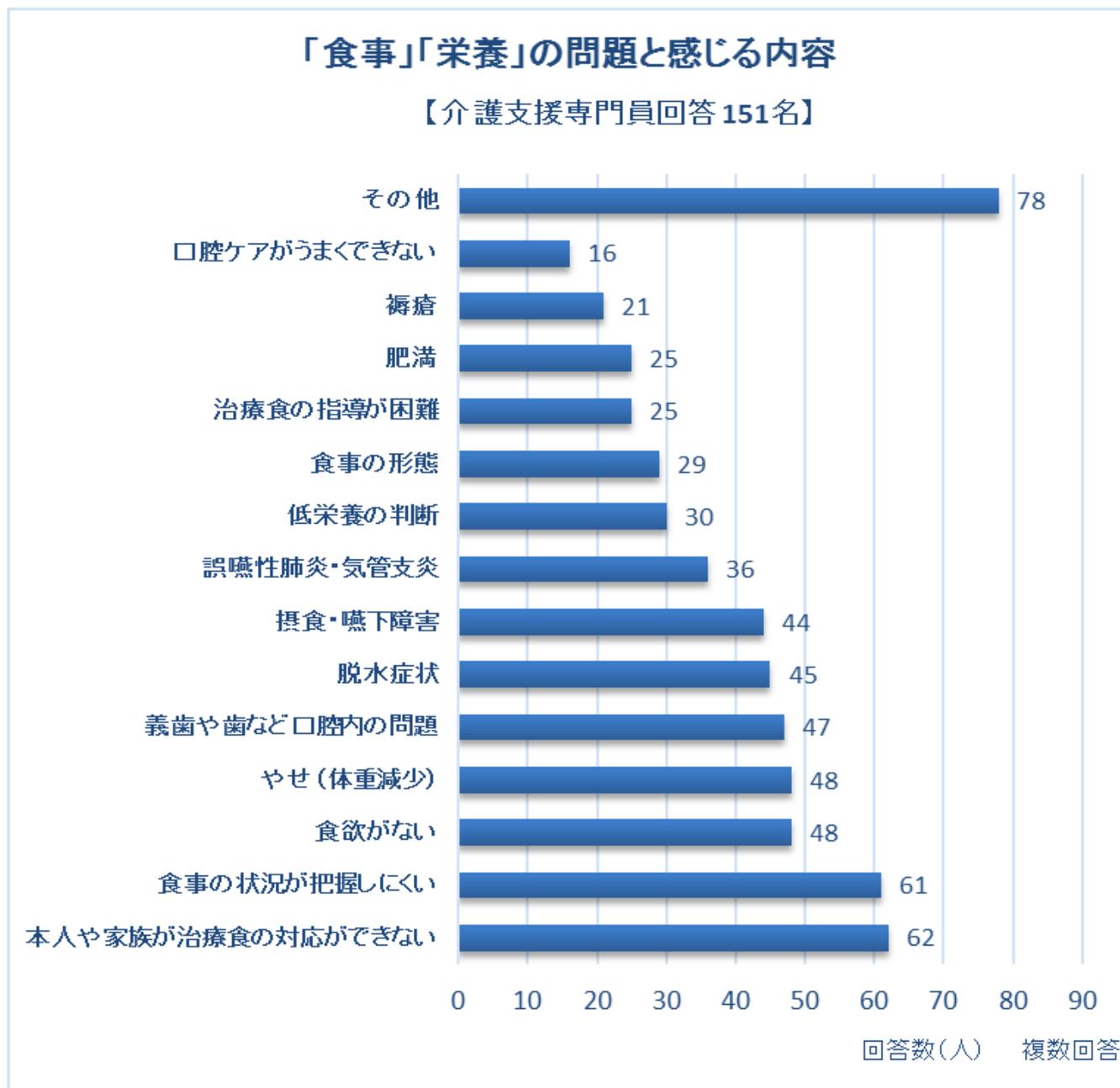
1. 実態把握の取組

平成28年度

『支援者を対象にした低栄養改善・食支援に関する調査』を実施。

【目的】 出雲圏域における在宅療養者の栄養管理についての課題（困り感）及び必要な情報やサポート等を明らかにし、その実態に即した取組を検討する。

【対象】 訪問診療を行っている診療所医師、訪問看護ステーションに勤務する看護師、居宅介護支援事業所に勤務する介護支援専門員



調査結果 抜粋
(介護支援専門員)

【取り組みの経過】

2. 共有化の取組

平成29年度～

年2回 低栄養改善・食支援対策検討会開催

年1回 研修会開催

情報交換

取組みの方向性
の確認

支援体制の構築
に向けた検討

【低栄養改善・食支援対策検討会 目的】

出雲圏域における在宅療養の実態に即した支援を提供するため、在宅医療にかかわる関係機関が情報交換を行い、今後取り組むべき支援の方向性を確認するとともに、低栄養改善・食支援にかかる支援体制の構築を目指す。

低栄養改善・食支援対策検討会 構成員

出雲医師会 医師

出雲市歯科医師会 歯科医師

出雲地区歯科衛生士会 歯科衛生士

出雲地区栄養士会 管理栄養士

島根県理学療法士会 理学療法士

島根県作業療法士会 作業療法士

島根県言語聴覚士会 言語聴覚士

出雲地域介護支援専門員協会 介護支援専門員

島根県訪問看護ステーション協会島根支部 訪問看護師

島根県薬剤師会出雲斐川支部 薬剤師

介護保険サービス事業者連絡会訪問介護部 ヘルパー

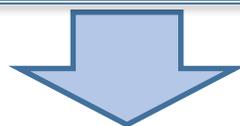
いずもおうちの食支援プロジェクト

出雲市医療介護連携課

出雲保健所

出雲圏域の課題

- ① **栄養の問題点抽出のための方法等の検討が必要**
～多職種で使えるツールの検討が必要～
- ② **専門職へつなぐための相談窓口の明確化が必要**
～各職種・関係機関の役割の明確化と共有が必要～
- ③ **管理栄養士や歯科、各セラピスト等による在宅支援のためのアセスメントが必要**
～必要時、必要な支援が提供できる体制整備が必要～
- ④ **低栄養改善の視点の普及が必要**
～食事・低栄養への関心を高める、低栄養に関する啓発が必要～



- **低栄養スクリーニングのためのチェック表 作成**
- **サービス提供体制の整備**

【取り組みの経過】

3. 課題の解決に向けた取組

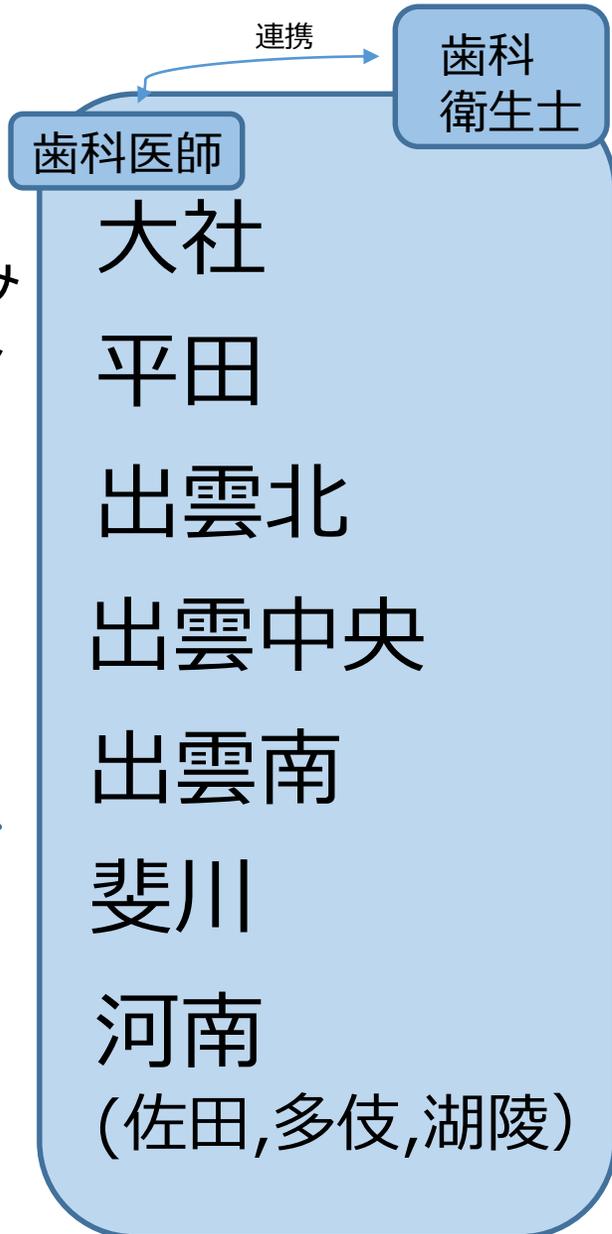
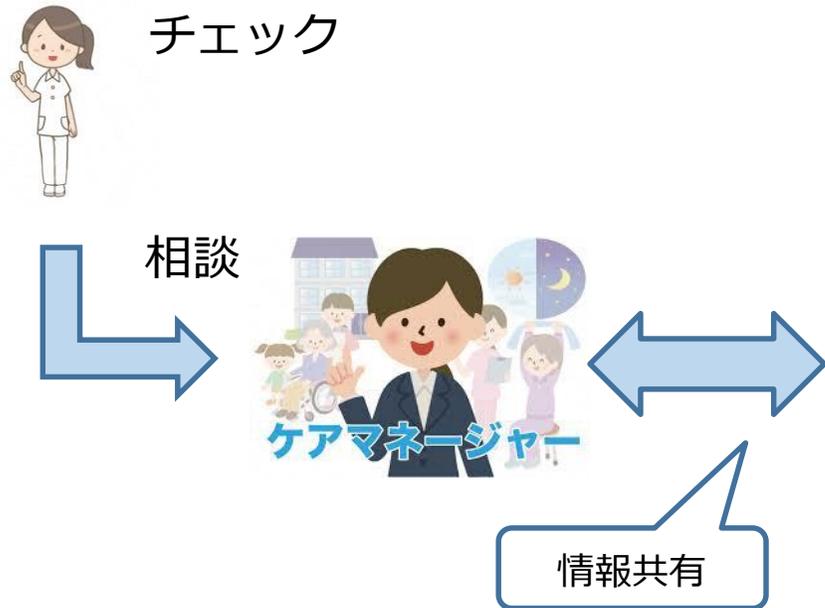
1) 共通ツール「低栄養・食事・口腔ケアチェック」表の作成と活用

調 査 項 目	
	1 下咽頭嚥下 (00) 上咽頭嚥下 (00) <small>00は0 20は1 30は2 40は3 50は4 60は5 70は6 80は7 90は8 100は9</small>
全身状態	2 どこか元気がない
	3 食欲がない
	4 食事量が減ってきた
	5 体重が減ってきた
	6 認知機能の低下がある・ありそう
	7 下痢がある
	8 便秘がある
	9 発熱が出ることが多い
	10 咳や痰が増えている
	11 るれっの回りにくい言葉になっている
	12 手足に不自由がある
	13 自分で目的の場所まで移動が困難
	14 夜たきり又は車いすを利用している
	15 最近大きな病気をした 又は 精神的ダメージがあった
	食事の様子
17 食事の楽しい感や満足を保てない (調理が強い、身体が傾いている等)	
18 食事に興味がない・すぐに中断する・すぐに戻ってしまう	
19 水分や食べ物をむせる、むせるのは、 食時・時々 (0は1 食時=2)	
20 食事に30分以上かかる	
口 腔	21 痰や唾液が絡んだようなガラガラ声になっている
	22 歯みがきや歯肉の清掃は自分で済んでいる 又は口腔ケアに器具が足りず十分
	23 うがいができない
	24 歯や歯肉の状態に不具合がある
	25 口腔乾燥がある (口内や口腔の乾燥も含む)
そ の 他	26 舌の動きが悪い(大きく動かせない・舌先の動きが鈍い、いつれか又は確認できない)
	27 拒食傾向にある
	28 孤食である
	29 家族の支援が受けにくい 又は 受けがらない
	30 ここ1週間家族やサービス提供者以外と会話がない

「低栄養・食事・口腔ケアチェック」表のチェック項目

2) サービス提供体制 (窓口設置) の検討・整備

◎平成30年度
出雲市歯科医師会の取組み
～地区ごとの相談窓口の設置～



相談・助言



訪問による面接
等

栄養士は・・・

- ◎ 島根県栄養士会
～ 栄養ケア・ステーションしまね との連携

リハ職は・・・

- ◎ 島根県言語聴覚士会、島根県作業療法士会、
島根県理学療法士会 との連携



3) 専門職派遣試行事業 の実施

低栄養改善・食支援のための

専門職派遣試行事業

相談に応じて、専門職を調整、派遣させていただきます

試行期間
4月～6月
負担は
ありません
1人2回まで

【派遣する
専門職】

歯科医師または歯科衛生士、管理栄養士、
言語聴覚士等

【実施内容】

在宅療養者が食事を愉しみ、低栄養改善に必要な支援が得られる体制を整えるための、アセスメント(面接、助言)を実施します。

●まずは、気になる方をチェック！

～裏面をご利用ください。

栄養状態は？お口の問題？飲みこみは？等で専門職派遣を検討されたら

●保健所へ相談 ～専門職の派遣調整

●専門職の派遣 ～「アセスメント」と「助言」

お気軽に ご相談ください。

お問合せ

TEL 0853-21-1191

出雲保健所 医事・難病支援課

4) 研修会の実施

【平成29年度 研修会】

【目的】低栄養状態を等しく理解し、口腔や食支援に関心をもち、個々の状態をアセスメントでき、必要な知識を得、連携強化につなげること。

【内容】1. 「低栄養・食支援」のケアの現状 講師：介護支援専門員、訪問看護師、ヘルパー

2. 「低栄養の定義」を学ぶ 講師：医師

3. 栄養状態・口腔内のアセスメント

(1) 専門分野からみた必要な視点 講師：歯科医師、言語聴覚士、訪問管理栄養士

(2) グループワーク ～よりよい支援につながるアセスメントについて～

【結果】参加者69名。基本を学び、かつ参加者が自分にできそうなことを考えるきっかけづくりができた。

【平成30年度 研修会】

【目的】高齢者の低栄養・食支援と口腔ケアの重要性を理解し、さらに、低栄養の評価、他職種との連携・協働をどう図っていくかを考える機会とする。

【内容】1. 行政説明「出雲圏域の在宅療養における低栄養改善・食支援対策」

2. 講演「高齢者の低栄養・食支援を考える」 講師：歯科医師

3. グループワーク ～各地区での多職種連携を目指して～

(1) 情報交換・交流：各職種・機関としての在宅療養者への支援の現状

(2) グループワーク：低栄養等の方への支援・連携について～事例をとおして～

【結果】参加者71名。食事を改善するためには、まず口腔内を整えること。口腔ケア、口腔機能の改善・保持の必要性、重要性の理解が深まった。活動地区ごとのグループ構成は、顔の見える関係づくりの視点で好評だった。

【令和元年度 研修会】

【目的】専門職派遣を試行実施した事例報告から日頃の活動考え、今後の連携・協働をどう図っていくか考える機会とする。

【内容】1. 「専門職派遣試行事例報告 ～5事例～」 発表者：各担当介護支援専門員

2. グループワーク ～報告事例を参考に、自分達の地域ではどうするか考える～

【結果】参加者65名。事例が参考になる。関係者の気づき、専門職の知恵を借りるタイミング、きっかけ作りも重要という感想が多かった。多職種で行う意見交換の場継続希望の声も多数であった。取り組みを推進するためには対象者や家族の理解が必要、そのための普及啓発の必要性を指摘する声もあった。

【取り組みの経過】

4. 施策化の取組

出雲市での事業実施に向けて

令和2年度～

出雲市：「低栄養改善・食支援のアセスメントに係る専門職派遣事業」の実施

＊令和4年度までの3年を区切りとする

医療や居宅療養管理指導を活用してサービスを受けられる体制の確立を目指す

保健所：「低栄養改善・食支援対策検討会」の開催
研修会の開催

【まとめ】

- ・関係者の連携強化及び資質の向上を図りながら、事業の評価、改善を図っていく
- ・介護支援専門員が状況把握し、かかりつけ医と協働で進めることが、事業推進の鍵となる
- ・サービス提供体制については、量的・質的にも引き続き検討が必要
- ・研修会の開催は、関係者の気運を高める大きな力となった。今後は広く住民への啓発の方法等についても検討が必要

めざしているのは

低栄養改善・食支援のために、必要な時、必要な支援が提供できる体制整備

